

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和2年12月10日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4673900108
法人名	医療法人 トウスイ会
事業所名	グループホーム みのり園
所在地	鹿児島県薩摩郡さつま町宮之城屋地1358-2 (電話) 0996-52-0122
自己評価作成日	令和 2年 3月 5日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和 2年 12月 2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・町の中心部に母体病院と隣接して建物があり診療や健康管理を任せる環境です。
- ・園のお風呂場のお湯は温泉で24時間365日お湯が出ておりいつでも入浴出来ます。
- ・職員は園理念を毎朝復唱し、ご利用者様の尊厳を守るケアに取り組んでいます。
- ・ご利用者様は生活リハビリに参加して頂いたり、休みたい時は休んで頂いたり、自由な時間を過ごして頂き、自信と喜びに繋がっています。
- ・園庭では季節の野菜や花を育て収穫や眺める楽しみを味わって頂いています。
- ・気候の良い時期は散歩や日光浴を行ったり、手作りお弁当を持参し近くの公園へ遠足に行ったりしています。
- ・玄関や門は施錠せずいつでも出入りが出来、お客様が来易い様配慮しています。
- ・職員は役割を持ち、季節に合った室内環境に配慮したり、その月の行事を取り入れたレクリエーションを計画し実施しています。
- ・毎年秋には高校生が実習に来る為、職員も初心に戻り介護に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

国道沿いの町の中心部に位置し、母体病院とリハビリセンターと隣接している。2ユニットで中庭を囲む様に建てられ、菜園には季節の野菜や花が植えてあり、利用者は収穫を楽しんでいる。また収穫した野菜は旬の食材として活用している。母体病院が協力医療機関となっており、24時間オンコール体制があり家族や本人また職員の安心に繋がっている。緊急時や重度化・終末期については、本人や家族の意向や希望の意思確認を事前に行い、本人や家族の望む暮らしを支援している。地域とは互いの行事へ参加したり、認知症の理解や支援方法を提供している。食材は地産地消、旬の野菜や肉・魚等地元から取り寄せるなど、地域・地元との交流も図られている。

職員はケアプラン会議で評価された理念を基に、利用者の自由な生活・家庭的な生活をと、力量のある利用者の方へは食事の準備や片付け、洗濯物等家事への参加をお願いしながら、利用者個々の満足につながるよう支援している。

管理者は日頃から職員とは気軽に意見が言い合える雰囲気作りに努め、ケアの中やミーティング等で職員の意見や要望を把握し、サービスの質の向上に反映させており、信頼と協力の体制を構築している。スキルアップを図る研修の実施や業務に対する助言・指導を積極的に行い、勤務シフトには可能な限り配慮し本人の意向を反映させるなど、職員の意欲向上及び働きやすい職場環境の整備に努めている。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ．理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	毎朝、朝礼時に理念の唱和を行い、職員全員で共有し、実践に努めている。	理念と共に年度目標を掲げている。職員会議で理念を共有し、毎朝唱和している。理念は目につく所に掲示して、ミーティング時並びにユニット毎で話し合い、振り返って理解を深め支援内容への反映に繋げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の育成会とは、七夕祭り、公民会の方とは敬老会に出席して頂いたりしている。みのり園だよりを年2回発行し読んで頂いている。	自治会へは加入していないが、法人主催の行事や事業所の敬老会等へ、地域の方が参加される。日常的には散歩や買い物に出かけ、近所の方々と挨拶を交わすなど交流している。		
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	園に来られた方には、認知症の方の理解や支援方法を提供して活かしている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的開催している。ご家族、役場、民生委員の方々の意見を参考にし、それを職員会議で報告し話し合っサービス向上に活かしている。	会議へは、家族・地域住民・役場職員・民生委員等が参加され定期的開催されている。会ではホームの現況や利用者の現況、ヒヤリハット等の報告を行っている。毎回参加される地域のアドバイザーからは、活発な意見も多く頂き、職員で話し合いケアの向上に活かしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席して頂き、町担当者から園の入居状況など問い合わせ等があったり、更新時の手続き等の相談したり日頃から連絡を取り合っている。町主催のケア協議会等に参加している。	介護保険の更新や各種制度の申請、報告や相談等を電話や窓口に出向き、指導や助言をもらうなど日頃から協力関係を築いている。町主催の会合や研修会のいは、積極的に出席して、サービスの改善に繋げている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設けて勉強会をしている。ビデオや事例を出して勉強している。職員全体で身体拘束しないケアに取り組んでいる。	身体拘束委員会を設置し、3ヶ月毎に研修会を行い、職員会議でも話し合っている。言葉による拘束には、言葉での行動制限や気持ちの押えつけないように意識付けを図ると共に、日々の支援で不適切な言動が見受けられた場合は、お互いが声を掛け合うようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員を設け議題について皆で意見を出し合って防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は制度があることは理解している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族の不安や疑問点を納得されるよう十分な説明を行い理解されるまで説明に心がけている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関には意見箱を設置している。家族からの電話連絡時や面会時は、職員が意見や要望を伺いそれを運営に反映させている。	日々のケアの中での会話や仕草等で、利用者の意向を把握し家族からは面会や行事・電話等で意見や要望の聞き取りに努めている。また意見を述べやすい雰囲気作りにも配慮している。出された要望等は、申し送り時や職員会議等で検討し、サービスの改善を図っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼や職員会議での意見をまとめて代表者は主任会議にて反映できるように努めている。	管理者は普段より職員との会話を大切にし、日々のミーティングやケアに際してまた職員会議や個別面談を行い、働きやすい環境作りや職員のスキルアップや、支援へのサービス向上等に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営上できる限りの条件の整備、各自が向上心を持って働ける職場環境に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者研修、消防に関する研修、紙むしり専門業者による排泄ケアの勉強会を実施し働きながらトレーニングしていくことを進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者間での情報交換はされているがネットワーク作りは実施していない。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面談時や入所後も、ご本人が困っている事や不安な事、要望等に耳を傾けご本人の安心を確保するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申請時、入所後などに信頼関係が持てるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人と家族の実情に応じ必要な支援を見極め他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気を大切にし、暮らしを共にする者同士、生活していけるように心がけている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族へ写真入りの手紙を送ったり、行事への参加の連絡を取ったりして絆を大切に協力し合える関係に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族、友人・知人の方の面会の支援を行い、大切な関係が維持できるようにしている。	入居時に、生活歴や本人や家族・関係者からこれまでの馴染みの関係を聞き取り、入居後も日々の会話から把握した情報を職員間で共有している。馴染みの関係が途切れない様に、家族と職員が協力して同行訪問するなど支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係が良くいくように、テーブル席の配置の工夫を行い支え合えるような支援をしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後であっても行事がある時は声かけしたり、入院された時にはお見舞いに行ったりして関係を持っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人やご家族と話をする中で思いや意向を把握し、要望・意向に添えるよう努力している。	利用者の思いを、日々の会話や仕草で把握し、生きがいのある利用者主体の暮らしとなるよう家族の意向も聞きながら、取り組んでいる。把握した内容は、職員間で情報を共有している。利用者にとってより良い支援になるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の情報を元にご本人、ご家族等に聞き取りを行い、生活歴・他の情報把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別の記録や申し送り、ケア会議、日々の会話等でそれぞれの方の現状についての把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者の病状、認知症状の進行等、変化に応じ本人、家族、必要な関係者と連携を図り、それぞれの意見やアイデアを反映し現状に即した介護計画を作成している。	利用者や家族の意向を把握し主治医や職員の意見を基に、毎月ケア会議を行っている。身体状況に変化が見られた時や、利用者や家族の思いに変化が見られた場合には、その都度プランを見直し、現状に即した計画となっている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録し、申し送りやケア会議等で情報を共有、話し合いで実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	各個人、それぞれのニーズは様々で期待に沿えるよう柔軟な支援サービスが行えるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員、ボランティア、公民会、警察、消防、子ども園等の協力を頂きながら安全で豊かな暮らしが出来るよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当園の運営主体が病院の為、入所前時に本人、家族の納得を得ている。また他医療機関を引き続き受診される方についても安心して医療が受けられるよう支援している。	本人や家族が希望する主治医となっているが、殆どの利用者が法人母体の医療機関を主治医としている。訪問診療が実施され、他科受診は家族の協力支援が基本であるが、職員が同行する時もある。母体病院が協力医療機関である事で、利用者や家族の安心につながっている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者の健康状態を常に把握し、情報や気づきを看護職員と共有し適切な受診が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ご利用者の症状や変化を病院関係者と情報交換や相談を通して行い、日頃より信頼関係を築くよう努力している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化や終末期について、本人・家族と話し合いを行い、事業所でできること等を伝えた上で納得を頂いている。	重度化や終末期の対応については、重要事項説明書の中に明記され、入所時に本人や家族に説明し同意を得ている。事前意志確認書ももらっている。重度化した時点で、主治医・職員・家族・関係者と十分な話し合いを行い、事業所で出来ることを説明している。母体医療機関と連携を図りながら、話し合いを重ね本人・家族の思いをくみ取り支援につなげている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な避難訓練の中で消防職員立合いの下、応急手当や初期対応の訓練を実施している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の災害避難訓練は、夜間想定 の訓練で行われている。母体病院と の連携もしっかり取られ、人的協力 や水・食料備蓄の協力がある。さつ ま町は、他の福祉関係の事業所の避 難訓練を相互見学するシステムがあり、 共に学び合う機会が年1回設けられ ている。	消防署の立ち合いで年2回の火災 訓練を夜間想定で行っている。 母体医療機関とは、自家発電や 水・食料や備蓄の協力体制があ り、ホームにも水や菓子類など 置いている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重やプライバシー等に関しては、研修の中で何度も触れ、職員は理解し、気を配って日頃のケアを行っている。ボランティア、実習生の方にも事前に個人情報やプライバシーに関して配慮する旨を伝えている。	プライバシーや接遇に関する研修を実施し、入浴や排泄食事などの日常のケアに際して、個々に応じた声掛けや説明を行い、利用者の不安や羞恥心に配慮した支援に努めている。日頃より言葉遣いやコミュニケーションを大事にして思いや希望の把握に努め、個人記録の保護にも十分配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でご本人の希望や思いを表せるよう声かけして自己決定出来るように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にしながらご本人の訴えを尊重しその日をどのように過ごされたいか実現出来るように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれが出来るように好みに合わせて支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの力を活かしながら食前のテーブル拭きやお茶入れ等、職員と一緒に準備、片付けを実施している。食事を楽しまれるよう食前体操や雰囲気作りを心掛けている。	美味しく、楽しく食べてもらえるように、旬の食材や菜園での収穫野菜も活用しながら、利用者の好みの献立に反映させている。包丁を使っの下ごしらえや、下膳や茶碗を洗う方もおられる。出来る事は一緒に行っている。季節の行事食や誕生会・敬老会・弁当持参の花見・手作りのおやつ等、食事を楽しむことの支援につなげている。	

12

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態の把握をしっかりとし、食事や水分摂取を無理なく満足して頂けるよう配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア、義歯洗浄の声かけを行い、出来ない方は介助している。夜間は洗浄剤を使用し清潔を保っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	数種類のパットを準備し、時間帯や状態によって使い分けている。また、ADLアップやポータブルトイレの利用などで、一人ひとりの排泄の自立に向けた支援をおこなっている。	利用者の自尊心に配慮し、個々のパターンや状態に沿った対応に努めている。心身の状態に応じた介護用品やケアの方法を、業者からの勉強会で指導を受け適切なケアが出来るように努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為、毎日ヨーグルトを摂って頂いている。個々の1日の水分摂取量を把握し声かけしている。運動も取り入れスムーズな排便に向けて取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴事前に声かけしたり、入浴中話ししながら楽しく入浴して下さるよう、入浴後は気持ち良かったと思って下さるよう気配りしている。	週2回から3回の温泉入浴をゆったりと安心して楽しめるよう支援している。排泄の汚染時等は、その都度清拭や入浴で清潔にしている。入浴後は保湿剤の塗布や水分補給を行っている。入浴時の利用者の不安。羞恥心に十分配慮し、入浴を楽しめる様支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状況を把握し、昼寝をして頂いたり、身体を休めて頂いたり、夜の入眠時間に声かけし安心して休んで頂けるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院、薬局の指示の下安心して服薬して頂けるよう支援している。病状の変化がみられる時などすぐに連絡を取り指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の力を活かし、役割分担など行う支援をしている。レクリエーションの時間を設け皆様に楽しみながら気分転換をして頂いている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の体調に合わせた散歩をしたり、行事などの中無理のない場所への外出を楽しんで頂いたり、外出出来る方はご家族との外出を楽しんで頂けるよう相談したりしている。	利用者の体調や天候を見ながら、本人の希望に沿って敷地内の散歩や日光浴、またテラスでお茶を飲む事が日課となっている。年間の外出行事計画もあり、花見や遠足、ドライブ等に出かけている。外出がとても楽しみな事として支援している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の財布は所持していないが個人の希望に応じ使えるようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話がかかってきた時はご本人様と話をしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日ご利用者様と出来る範囲で掃除等、清潔な環境作りに心掛けています。	リビングは窓が大きく、採光は十分である。廊下の壁には季節を感じる共同作品のタペストリーが飾っており、和やかな雰囲気を出している。温度や湿度にも配慮し、加湿器や空気清浄機が置いてある。洗濯物をたたんだり、ソファや椅子でくつろいだりと、思い思いに過ごされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル配置の工夫、リビング・ダイニングの利用が自由に出来るように配慮しています。玄関脇に椅子等を設置したりして独りになれる場所を作っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで家で使い慣れた物や家族の写真等を居室に置き、気持ち良く安心して生活出来るように支援している。	エアコンとベット（レンタル）が備え付けられ、時計・テレビ・写真・ぬいぐるみ等馴染みの品を持ち込まれている。中には若い頃の手作り作品や書道作品を飾っておられる方もいる。採光も十分な明るい部屋からは、菜園や中庭も見え、部屋入口はリビングに面している事で、安心感がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室等判り易く表示し安全に利用して頂けるようにし、また混乱なく利用して頂けるように配慮しています。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない